

CUCMおよびIMPSのCOPファイルのアップグレード準備チェック

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[使用方法](#)

[レポートの入手方法および確認方法](#)

[1. ネットワークステータス](#)

[2. COPSのインストール](#)

[3. サービスの状態](#)

[4. データベースの健全性](#)

[5. クラスタ・データベースのステータス](#)

[6. 最終DRSバックアップ日](#)

[7. ディスク領域のチェック](#)

[10. 電話数](#)

[12. アップグレードチェック](#)

[13. 非推奨の電話機モデル](#)

[14. ネットワークアダプタの互換性](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Unified Communications Manager(CUCM)およびIM and Presence ServerのCOPファイルをアップグレードの準備状態で確認する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Communications Manager 9.x以降
- IM and Presence Server(IMPS)9.x以降

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco Unified Communications Managerバージョン10.5.2に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

Cisco Unified Communications ManagerおよびPresence Serverのアップグレードには、十分なロギングパーティションの使用、バックアップの成功、データベースとネットワークの状態の誤りなどの前提条件があります。

同様に、アップグレード後にクラスタの状態が良好であることを確認するために、アップグレード後に実行できるチェックはほとんどありません。

シスコは、これらのタスクを自動化し、UCMやIM&Pのアップグレードを最大限に成功させるCOPファイルを開発しました。これにより、管理者は、ダウンタイムの増加や、問題からの復旧、またはアップグレードの復元や中止を試みる労力の無駄を回避できます。

管理者は、アップグレードするサーバでこれらのcopファイルを実行するだけで、さまざまな側面をチェックしてレポートを提供できます。

copファイルには2つのタイプがあります。

PreUpgradeCheck COP：システムがアップグレードを開始できる状態であることを確認します。PreUpgradeCheck COPファイルにはテストが含まれており、その一部は『[Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Serviceリリース11.5のアップグレードおよび移行ガイド](#)』の「アップグレード前の作業」セクションに記載されています。

PostUpgradeCheck COP：アップグレード後にシステムが正常な状態であることを確認します。このCOPは、アップグレード前のチェックCOPファイルによって作成されたデータを使用して、アップグレード前後のシステム状態のさまざまな側面を比較します。

PostUpgradeCheck COPファイルには、『[Upgrade and Migration Guide for Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service, Release 11.5\(1\)](#)』の「Post-upgrade Tasks」セクションに含まれているテストの一部が含まれています。

設定

PreUpgradeCheckおよびPostUpgradeCheckのcopファイルはCisco Software Download Page（登録ユーザ専用）で入手でき、次のリンクからダウンロードできます。

[COPファイルをダウンロードするにはをクリック](#)します。

使用方法

アップグレードの前に、最新バージョンのpreUpgradeCheck COPファイルをダウンロードしてインストールし、実行します。PASS / WARNING / FAILの出力を確認します。すべてのFAILと警告を解決します。満足するまで繰り返します。

アップグレード後、最新バージョンのpostUpgradeCheck COPファイルをダウンロードしてインストールし、実行します。これにより、システムの健全性がチェックされ、アクティブバージョンと非アクティブバージョンの項目が比較されます。サービスと電話が起動するまでにしばらく時間がかかることがあるため、COPの実行を数回繰り返すことをお勧めします。

copファイルのインストールは他のcopファイルのインストールと同様で、インストールの詳細な手順はcopファイルのReadmeに記載されています。

詳細を表示するには、[PrecheckUpgrade Readme](#)または[PostUpgradeCheck Readme](#)をクリックします。

レポートの入手方法および確認方法

COPファイルのインストールが完了すると、テスト結果のサマリーと、レポート全体を表示するためのパスやコマンドが表示されます。

Summary:

Total Test Run : 14

Total Passed : 10

Total Warnings : 3

Total Failed : 1

Note: Please refer to the readme of Pre Upgrade cop for test details and pass/fail/warn/criteria

Duration for running tests: 0:01:49

=====
Use "file view install PreUpgradeReport.txt" to view the report

PreUpgradeCheckの場合はfile view install PreUpgradeReport.txtを実行し、PostUpgradeCheckの場合はfile view install PostUpgradeReport.txtを実行します。

出力は次の図に似ており、さまざまな側面で結果がPASS/FAIL/WARNINGと表示されます。

```
admin:file view install PreUpgradeReport.txt
```

```
Use "file view install PreUpgradeReport.txt" to view the report
```

```
=====
                        Pre Upgrade Test                        Date: 01/25/2019 19:14:13
=====
Active Version:  10.5.2.12900-14
Server:  cucm1051 , CUCM Publisher
=====

Result  Test
-----
1.1  WARN   DRS backup status
      WARNING: No backup device is configured. This is required to recover your
      system in case of failure.

1.2  PASS   Cluster Database Status
1.3  PASS   Deprecated Phone Models
1.4  PASS   Common Security Password Length
      System not in FIPS mode, Common Security Password's Minimum length
      requirement not enforced
=====
```

チェックされるさまざまなコンポーネントのリストを次に示します。

1. ネットワークステータス

次にテストチェックを示します。

クラスタ内接続

DNS到達可能性

NTPステータス

NTP到達可能性：外部NTPサーバの到達可能性を確認します。

NTP clock drift: NTPサーバからのローカルクロックのドリフトをチェックします

NTP stratum：基準クロックのストラタムレベルをチェックします。

前のチェックのいずれかまたはすべてに問題がある場合、テストはFAILとしてマークされ、レポートに適切な理由が示されます。

2. COPSのインストール

このテストでは、サーバのアクティブパーティションにインストールされているCOPを一覧表示します。

同じローカルCOPのバージョンが複数インストールされている場合、またはdp-ffr.3-1-16.GB.copが9.xサーバにインストールされている場合は、警告が表示されます。

3. サービスの状態

このテストでは、すべてのサービス (STARTEDまたはSTOPPED) の状態を検査し、次のサービ

スをレポートします。

- 重要なネットワークサービスであり、停止されています。
- アクティブ化しますが、実行しません。
- 前の基準を満たすサービスが見つかった場合、テストはFAILとマークされます。
- このテストでは、アップグレード後のチェックCOPで使用されるすべてのサービスの状態も保存されます。

4. データベースの健全性

このテストでは、一部のデータベーステーブルに非標準エントリが存在するかどうかを確認します。これらのエントリが存在すると、アップグレードDBの移行が失敗する可能性があります。テストで標準以外のエントリが検出された場合、そのエントリと常駐データベーステーブル名がレポートに表示され、テストはFAILとしてマークされます。

管理者は、アップグレードを試行する前に、これらの非標準エントリを削除する必要があります。

5. クラスタ・データベースのステータス

このテストは、Unified Communications ManagerパブリッシャおよびIM&Pパブリッシャにのみ適用できます。

このテストでは、次に示すように、これらのチェックを同じ順序で実行します。

ノード認証状態：クラスタ内のいずれかのノードが未認証の場合、テストはFAILとしてマークされ、未認証のノード名がレポートに表示されます。

レプリケーション状態：クラスタ内のいずれかのノードのレプリケーション設定値が2以外の場合、テストはFAILとしてマークされ、ノード名がレポートに表示されます。

6. 最終DRSバックアップ日

このテストでは、最後のDRSバックアップがいつ作成されたかを示します。3日以上前か、またはDRSが設定されているかどうかを確認します。

バックアップの日付が非常に古い場合、管理者はDRSバックアップを復元する必要がある場合に最新の設定が失われないように、最新の設定のバックアップを作成できます。

7. ディスク領域のチェック

このテストでは、サーバの現在のリリースより上位のすべてのリリース（12.5まで）に必要な空き領域をチェックします。

すべての上位リリースへのアップグレードに必要な空き領域が十分でない場合、テストはFAILとしてマークされます。空き領域が十分であれば、1つ以上のリリースにアップグレードできますが、それより上位のリリースにアップグレードできない場合は、警告が表示されます。

8. PLM/SLMライセンスステータス

CUCMバージョン9.xから11.xの場合、PLMライセンスステータスがチェックされ、該当する場合

は適切な警告が表示されます。

12.xの場合、このテストでは登録ステータスと認証ステータスに基づいてSLMライセンスのステータスを確認します。

9. 共通セキュリティパスワード長

リリース12.5では、FIPS、ESM、またはCCモードの場合、共通セキュリティパスワードが14文字を超える必要があります。FIPS、ESM、またはCCモードが有効で、パスワード長が14文字未満の場合、このテストは失敗します。FIPSモードが有効でない場合はスキップされます。

10. 電話数

このテストでは、登録済みの電話機と未登録の電話機の数が一覧表示されます。
このテストでは、アップグレード後のCOPで比較するためにこのデータも保存されます。

11. VMツールタイプ

VMツールタイプをチェックします。VMツールタイプがopen vmtoolsの場合、vmtoolsのタイプとバージョンが出力されます。
VMツールのタイプがネイティブvmtoolsの場合、VMツールのタイプとバージョンが、この推奨事項とともに出力されます。

12. アップグレードチェック

このテストにより、12.5へのアップグレードに適用できる重要な情報が得られます。

13. 非推奨の電話機モデル

このテストでは、12.xリリース以降でサポートされなくなったUnified Communications Managerクラスタ内の電話機を確認します（サポートされていない電話機については、こちらを参照してください）。

このテストでは、そのような廃止された電話機がある場合に警告が表示されます（MAC IDと電話機モデルがレポートに表示されます）。

14. ネットワークアダプタの互換性

このテストでは、現在のネットワークアダプタがUnified Communications ManagerおよびIM and Presenceサービスの12.xリリースでサポートされているかどうかを確認します。

ネットワークアダプタに互換性がない場合、テストは失敗し、VMXNET3アダプタに切り替えることをお勧めします。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

一部のテストが失敗し、推奨文字列が十分でない場合は、次のトラブルシューティングを実行します。

インストールログで、「Filtering the COP file, download and install phases started and completed」などのCOPの実行に関する一般的な問題の詳細を確認します。

- COPがCCMまたはIM&P製品のみで実行されていることを確認します。
- COPが以前の最小サポートバージョン9.xで実行されていることを確認します。

アップグレード前およびアップグレード後のログは、RTMTからダウンロードするにはまだ使用できません。そのため、ログをダウンロードするには、file dumpまたはfile getオプションを使用します。

CLIコマンドfile get install PreUpgradeReport.txt(PreUpgrade)およびfile get install PostUpgradeReport.txt(PostUpgrade)を使用します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。